

# 本草圖譜

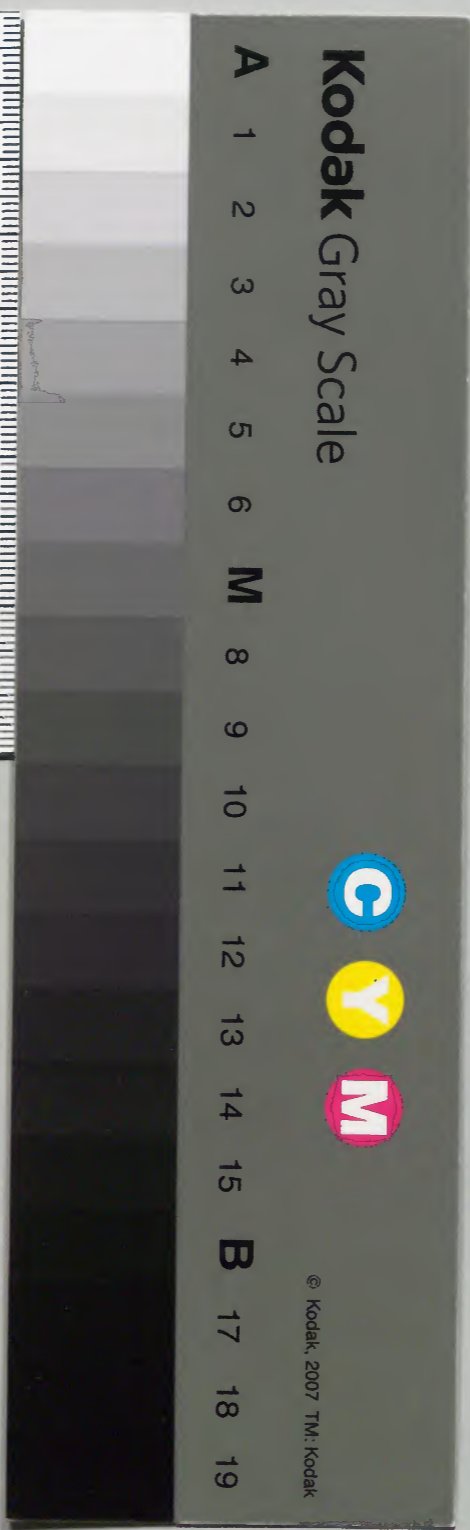
濕草類

自十六至十七

|       |   |   |   |
|-------|---|---|---|
| 太政官文庫 |   |   |   |
| 和     | 八 | 三 | 四 |
| 書     | 冊 | 函 | 號 |
| 門     | 二 | 八 | 類 |

|      |   |   |   |
|------|---|---|---|
| 內閣文庫 |   |   |   |
| 和    | 八 | 三 | 四 |
| 書    | 冊 | 函 | 號 |
| 類    | 二 | 八 | 類 |

|      |          |
|------|----------|
| 內閣文庫 |          |
| 番號   | 和 8344   |
| 冊數   | 28 ( 5 ) |
| 函號   | 196 191  |





本草圖譜卷之十六目錄

濕草類

蟲實

とん

二

一種

かまやませう

悪實

むま

三

一種

魯西亜種

葉車

なまこ

四

天名精

いのちうくす

五

一種

あうしんきう

六

一種

やまきりう

一種

かんしんきう

七

一種

豨薟

めむみ

箬

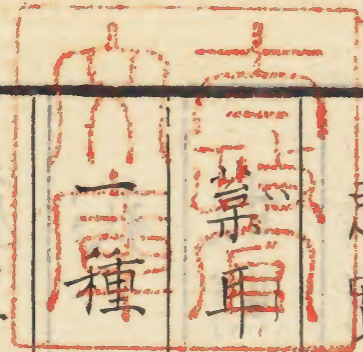
ちまき

八

本草圖譜

卷之十六目錄

一 豨薟





一種

舶来笊葉

九

一種

くまき

蘆

あ

一種

うどのき

十

荻

あき

十一

一種

ひめろ

十二

甘蔗

十三

水蕉

とせ

十五

紅蕉

ひまじ

十六

藁荷

めろか

十七

一種

やぶめろか

十八

麻黄

一種

かろ

十九

木賊

とく

一種

きとく

廿

問之荆

よき

石龍菊

いぬる

廿一

龍常草

かろ

燈心草

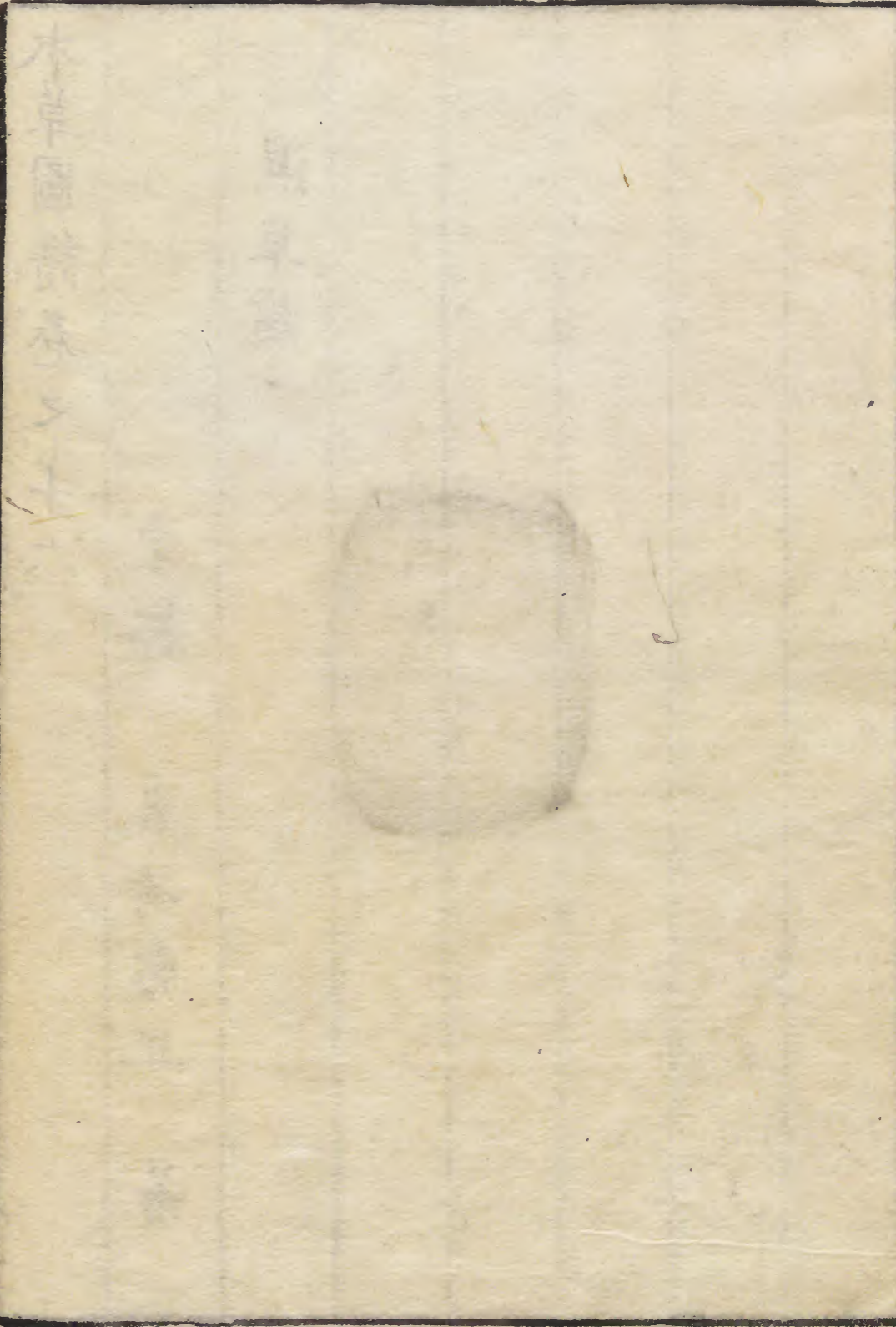
ぬ

廿二









蚤蛭實

とん 馬の音轉



自其かゝ人家た多く植るものなり紫羅襪の一種なり春月宿根より生ひ葉はらやりの  
似て厚く硬して皆赤れり故に赤らやるとも葉長二尺許り春の末花は三辨大なり三辨  
狭く淡紫色なり中より班り後葉を結ぶ形蟬蛸に似たり中より扁き黄色の實はり又  
近きもの種は形相似て但葉長く花の色薄し



一種

おもひよきやうぶ



琉球金山より来るもの葉はより  
より長く三尺許花深紫色やて美し

惡實

むまやま

葉唐大黃に似て長大根は薊根の如くして肥大多し花紅色薊の花に似たり實ハ  
楓葉に似て中子胡麻に似て両頭尖り薬用より根ハ食料より諸國は名産多し  
東國より上野の行田下総の大浦武州岩築結城忍又浦賀牛房ハ甚長く味美  
なり又武州比門谷俵牛房ハ肥大して長く柔くして熟し易しと云

一種

おもひよきやうぶ

此種近年魯西亜より来るもの葉ハ牛房に似て花又甚多し薊葉に似て刺あり  
根ハ牛房と異なるもの淡黒色味甘香氣は花實ハ牛房と同し



澤蘭附子



魯西垂種



蒼耳



菜耳

かみみ



荒野くわの多おほく實みより生まじ葉はハ牛房ごうぼうに似にて圓まるく又白桐しろとうの  
 葉はに似にて小こ厚あつく莖こゝろ高たかく四五尺四五尺杖ぼうを分わら夏なつ月つきは小白花せうはくはなを開ひ  
 き實みを結むすぶ其形そのかたち占斯せんすいらのいらら毛刺けらら人衣ひとえ獸毛けものけも粘ね  
 ひ一説ひとしやうは菜耳さいじの釋名しやくめいを卷耳まきみみを引ひて一物ひとものとこれと詩經しきやうの註しゆは形如かたちごと  
 鼠耳ねずみみみ叢生そうせい如盤ごとくばん云いふよれいみままくささ山野さんや多おほく冬ふゆより半な  
 春はるに至いたり盛さかり葉はハ鼠ねずみの耳みみに似にてこれ雞腸草けいちやうそうなり





天名精

いのきりくさ

山野に多し葉の形烟草に似て小なる者なりたれども一苗初地より布後高き二尺許の葉の間より小房を連生し黄花なり實甚く碎小多し是は觸れ人衣に粘り故に鶴虱の名なり



一種

きりくさ

苗葉雞兒腸に似て茎高さ二尺許多し枝を分て葉間より碎小白花より房の形天名精と同し實又人衣に粘り稀に附録の羊屎柴に似れし未決也





一種 ヤマトウツ



苗初地は布て地黄の葉の如く又天名精に似て軟く毛茸は花いんくひさまよ同

一種

かんくひさう



山野より葉は天名精に似て枝の末は一花を開く黄色にして指頭の下に曲り向ふ其形烟管の頭に似る是枚荒本草の物見茶を二説は猪苓の附録の類鼻を充つ未決せり

一種

花實小なる物





獅蒼

めかむこ



山野多一春月實より生じ葉は紫葎に似て  
齒多しの織道より莖皮面より紫色枝葉對生  
一毛茸より高さ三四尺枝を分て秋月小黄花を  
開く實五尖りて人衣に粘着葉味ひ辛





一種  
杉くま  
形状筭と同じ但  
高一丈二及小

竹

ちまきくま

山中自生り根土中延て死白竹俗の如く處々  
筍を生り幹高五尺葉の形山白竹に似て溜大葉  
老れし周白色より葉廣二寸長一六七寸本  
は圓より端平此葉標を包む故に名づく

一種

舶来筭葉



一種

くま

處々山中多し形状筭葉  
似て冬月の葉の周を枯て白色  
より故に山白竹の名なり和名  
ヤクマ



蘆

和名 鈔

蘆根

又州根より小春月宿根より生け水澤の地多く  
 初生竹荀の如く小兒好んで食し清商人は煮て食ひ長  
 せし高き一丈餘竹は似て枝少く軟く竹葉は似て長く穂  
 芒は似て肥大紫褐色後白色に變ひ又葉左右へ互  
 生せし一方の生むるを片葉のうら別種を非ひ







一種

ろのろ

攝州島上郡鶴殿村の堤に生ひ名産あり  
葉は蘆に似て狭く長く深緑色なり暖地より  
冬も凋まらば其幹一丈餘二年を経て枝を生  
し三四年して枯る根は近き處を切採て筆  
簞の義嘴と作る此物又房州にもありたぐり  
と云又西湖の蘆と稱するもの同物なり葎頰の  
説は深碧色者謂之碧蘆ていふべしなり





萩

りこや

原貝



花手あつ水邊に生け根竹に似て  
細く土中延苗葉は芒は似て高  
四五尺幹圓扁く實は但小  
き孔は秋月穂を生て又芒の  
如く肥大初紅紫色後白色を變





一種 蕭

ひめゆり

野州鈴鹿山より多く生  
 以又豫州より多く此より  
 編る蕭は伊豫を以て  
 云名産を山野に生  
 根は細竹に似て横行し  
 處々苗を生じ其幹細  
 く青筍の莖のふく  
 まり硬く直立し葉  
 は淡竹に似て薄く軟  
 多し冬月皆枯て春



新苗を生じ盧徳  
 名を初生を葭と云成  
 長きものを葦と云秋  
 には名を初生を莢と  
 云長きものを乱と云長  
 一極くは葎と云





甘蔗  
ミユサ 羅  
バナ、荷  
蘭



元和産多 暖國の産多 甘蔗ハ荷蘭物印忙ニ寫生  
其形圖の如ク水蕉ニ異スニモ但實を結ム是ニ三品  
實の形羊角の如ク長クニ尖リテ其の則チ羊角蕉



多一種六形圓下微尖柿似其形牛乳蕉也

水蕉

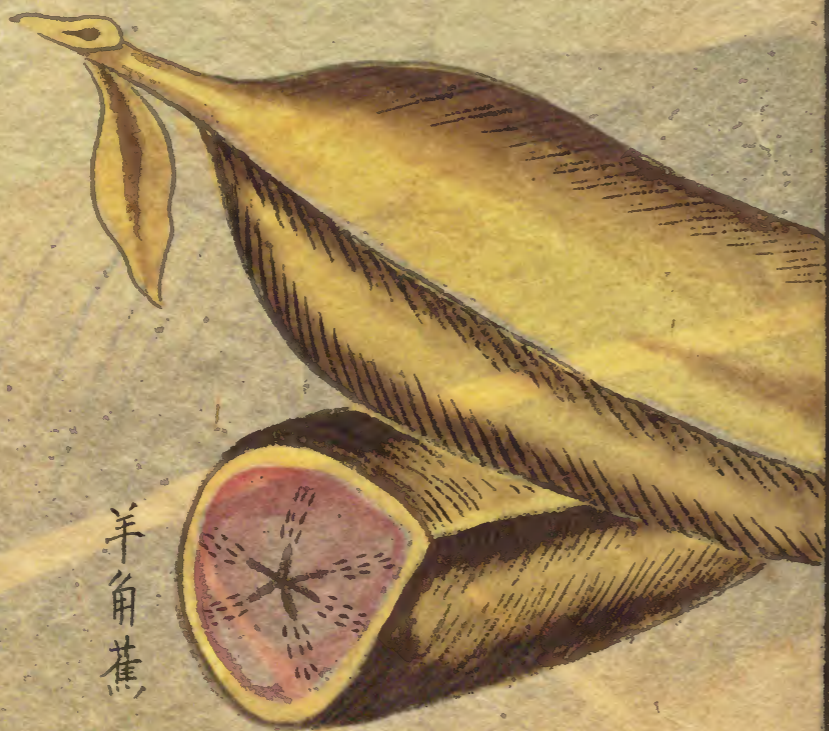
本草 和名

本邦多栽葉の長一尺餘長六七尺五年を  
終るの樹高さ一丈餘周リ二尺夏月梢に花を生  
じ茎二尺許り節多く下無其末に花は黄白  
色して莖葉は似り數十瓣相抱一葉  
の茎の本に實を生じ五稜して綠色熟せば  
落され集解云水蕉一名月蕉不結實山人  
治以為布云本邦もて此皮を織るを芭  
蕉布と云漢名蕉葛 秘傳花鏡といふ葉水腫  
病の床下敷又根を煎服され小便を通じ

草木多萃夏花木鳥獸珍  
玩考云水蕉。



牛乳蕉



羊角蕉



水蕉





紅蕉

美人蕉



天和年中琉球より渡りて  
本朝世事談に見ゆ苗葉芭蕉  
似て低く幹三年を経るもの  
小花を扇く形哉花は似  
て朱紅色久しう謝せ  
故は是れ七百日紅嶺南と云  
華夷花木考に西番連と云

本草圖譜

卷之十一

蕉園

十一 蕉園





菘荷 めりか

人家多く植生薑を似て  
高き大根の傍に花を咲く  
形くまふりちを似て大子淡  
黄色秋に至り實を結ふ紅  
色の瓣實を包む實白色仁  
黒色あり

一種

ヤぶめりか



山中陰地宿根より生け一茎葉周りつき  
房を多し小白花を咲き秋實を結ふ無味  
碧色萎れ冬實を似て味淡く香あり先葦草を  
杜若に充る非也是は修治に雷敷三所の葦草  
草也



麻黃

和産わし真の麻黄ハ形  
 木賊ニ似て細く中の穴甚し  
 小うして少く瓢河く實せ  
 系如く肥大なる物ハ中空うして  
 瓢を茎のわし葉なく  
 根上枝を分つ船来なる内に  
 稀は花實の附くものあり  
 實の形外皮は三分三稜  
 いろは黄黒色を根木の如く  
 指の大き黄赤色あり

船来麻黄腊葉



一種

武州豊島郡水邊砂地

武州豊島郡水邊砂地より宿根より生い根は筋の如く細く黒色條理あり葉は  
 茎は木賊に似て細く希は枝は希は花を生じその形筆頭葉に似たり  
 者無花不結實は麻黄の代用へ





木賊

トクサ

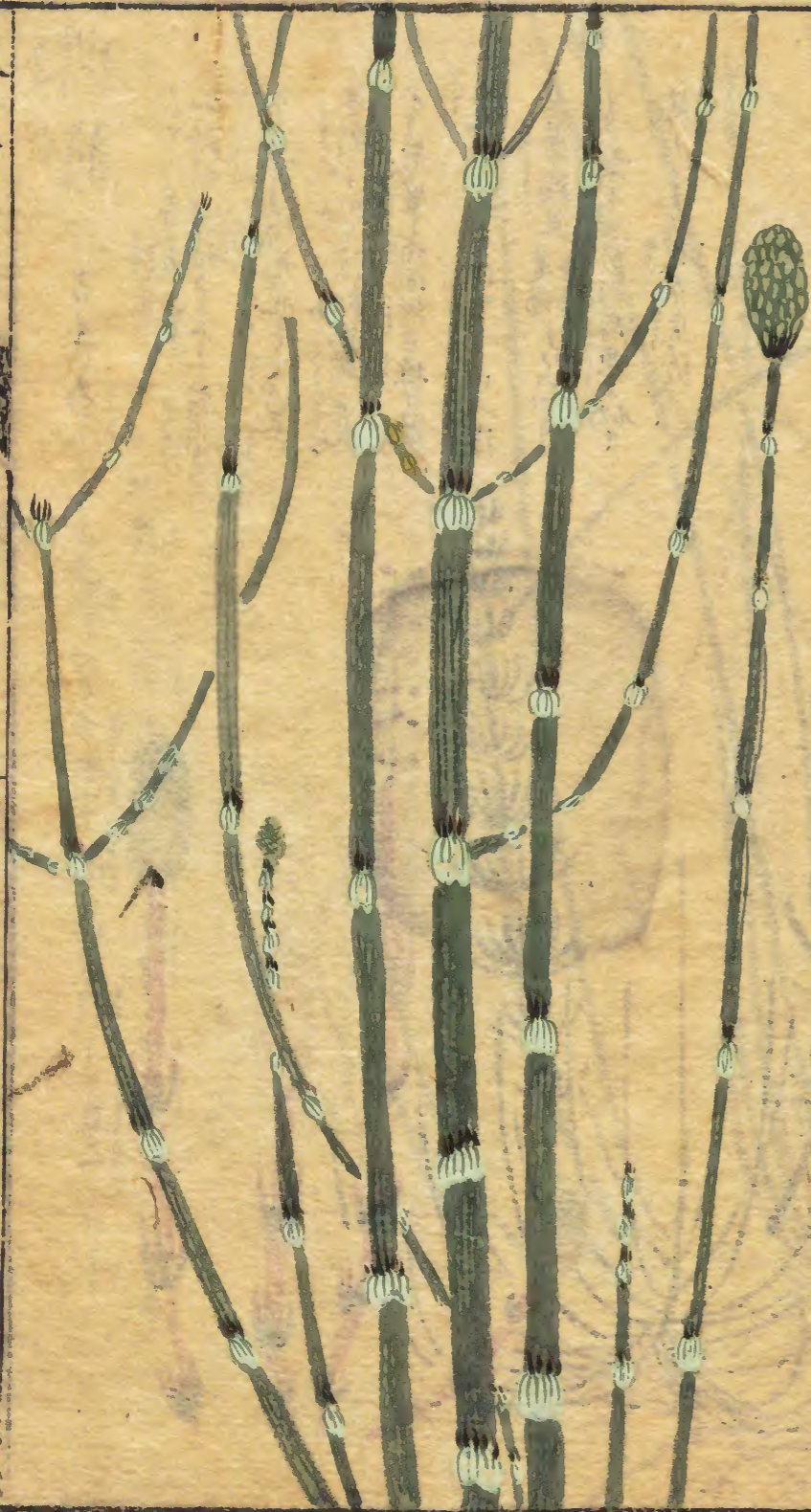
根夷しきりくわん山中溪澗に自生し又人家に植四時洞まを形なりくわん似て  
肥大小き筆管の如くして條理あり枝あり直立し中空あり根細く土中を蔓延し苗を生じ  
夏川茎の頭は花らし形筆頭葉は似て肥大あり薬用は茎を採て暴乾しさう木を磨  
きしは塩湯を以て煮乾ししる更性味脱げ



一種

キトクサ

佐渡に産し形木賊に似て稍瘦て長三四五尺  
及ふ枝を生じ更ありくわん花七とくさの如く  
少し二三葉一處に附く





問荊 之ハハ まきさ

山野の湿地に多く宿根あり二月頃先花を生じ葉未だ似て淡紅色頭の花より形筆頭の如く採り菜蔬しは是を以て漢名筆頭菜度陽と云ふ四月より葉を生じ形麻黄に似て節より枝を生じ



石龍菊 いぬぬ

龍常草の類に水澤に植形状燈心草に似扁より直より深緑色して光澤あり冬凋と高三四尺弱して直より





龍常草

わそゐ

水澤中みづくみに生なひ四時しよじもよらり形かたち燈心草とうしんそうに似にて  
頗粉綠色あざなみどりいろ圓まりて高たか三四尺さんしゆじ夏月なつづき葉はの中央ちゆうかう  
より穂ほを生なひ形かたち莞わんぬぬに似にて細こく其實そのじつ稈こゝろの如ごとし



燈心草

ゐ

總州そうしゆより水陸みづりくともよらり江州かうしゆより水田みづうら中ちゆうに培養くわいようひ形かたち龍常草りゆうじやうそうに似にて圓まく長ながく  
四五尺しよごふじ花實はなぢを視みて此類このるい三四種さんしゆしゆに似にて大同小異たいどうせういあり此草このくさを織おひて近江おんみ席せきと云いふ中ちゆうに  
継つぎ継つぎするる備後びご席せきあり藥くすりより生草せいそうを日ひに乾かし用もちへるる席せきに用もちふるる性味せいみ脱だつひ





本草圖譜卷之十七目錄

濕草類

|     |   |     |       |
|-----|---|-----|-------|
| 地黄  | 二 | 一種  | 白矢    |
| 胡面芥 | 三 | 川午膝 |       |
| 午膝  | 四 | 一種  | 九いりさう |
| 紫菀  | 五 | 一種  | 大坂まろん |
| 一種  | 六 | 一種  | 千本きく  |
| 女菀  |   | 麥門冬 | 七     |

本草圖譜

卷之十七目錄

一



本草綱目 卷之二十一 草部 十一

一種

サツラン  
中葉

一種

細葉

一種

白花

八

一種

アノのひけ

一種

のまらえ

九

一種

鶏尾らえ

萱草

わかれらえ

十

一種

南蠻らえらう

一種

ちていらこ

十一

一種

ひめらえらう

一種

ニラせけ

十二

一種

蠻産

一種

みぎらけ

十三

一種

きせけ

淡竹葉

さくらさ

十四

鴨跡草

つゆらさ

十五

一種

白花  
黄白雜る物

一種

圓葉の物

一種

近江の産

十六

葵

かえらえ

一種

をりのり

十七

蜀葵

しらけらえ

一種

白花  
黒めらえ

十八

錦葵

せしけらえ

菟葵

かえらえ  
千瓣

十九

一種

せしけらえ

一種

いぢらえ

廿

一種

越後の産

一種

白花  
紫花

廿一

黄蜀葵

とらけ  
漢種

龍葵

いぢらえ

廿二

龍珠

廿三

本草綱目 卷之二十一 草部 十一



本草綱目 卷之十七 目録

一種

いぬるふらき

酸漿

りゅうき

廿四

一種

るうりくわうつぎ

苦蕒

てんせんりゅうき

廿五

蜀羊泉

ミヤコ草のいしと  
リギヤイゴ

漆姑草

たろのりめ  
三種

廿六

鹿蹄草

ソウヤクヤク  
小葉ソウヤク

一種

紫苑鹿蹄草  
とくさくさく

廿七

一種

ソウヤク  
信川の産

一種

中のとうめ

廿八

一種

あこあかうつぎ

本草圖譜卷之十七

濕草類

東都 岩崎常正 著

本草綱目

卷之十七

目録



本草綱目 卷之十 地黃

地黃

さつねひめ 延喜式

メリツテス 荷

蘇頌の説に紅紫花と黄花と二種ありと云ふ和産とも赤矢白矢と二種ありて  
野生なり其赤矢と初夏宿根より生じ葉ハ初生の茂み似て厚く深緑色なり皺紋  
あり茎互生し夏月莖を抽て七八寸梢の葉の間より花あり筒様なり未五辨ありて  
胡麻花に似て淡紅色根赤黄色なり人脂の大き長さ三尺に及ぶ寒地より十月堀  
取陽地より貯へ四五月に至りて至二三寸宛に伐て栽る多し山城大和筑前より多く作



本草綱目

卷之十

地黃



一種

白矢、葉赤矢と同じ、  
稍淡綠色花黄色根  
亦黄白色、皮薄く

肉多く

上品

然れも

赤矢工

リ培養

しつて

府易

しつ利

少き

今裁中の亦少し惜むべし培養  
宜しければ切て赤矢より肥大少き



胡面芥

ままとめさう

桐花菜

俗清

春宿根より生ず葉ハ地黄母似る花紅色形  
地黄母同、暖地よりハ四時葉有り根まじ地黄母似  
乾すと切ハ括獲一用ふたは





川午藤

山中陰地ニ生ル葉ハ  
桃ニ似テ鋸齒有リ光  
澤あり花實土午藤  
ト一般アリ藥用  
上品アリ



牛藤

いもろつち 和名 鈔

土午藤ハ山野荒少多ク春宿根より生ズ  
葉ハ柿ニ似テ對生ニ節高々十午の藤に似  
テ淡紅色秋月高々三四尺梢ハ穂を弄り小  
花を開キ後實を結ニ熟して倒小掛る此れ  
ハ觸ると人衣歎と粘着す根の形丹參  
ニ似テ細長く紅黄色油多ク此れ山萹葉草  
又山午藤草野譜あり





本草綱目 卷之十七 紫菀 五

一種 在いりさう

山野陰處多し春宿根より生る  
葉排草香ありこの葉少似て香あく云頭  
の鋸齒あり圓莖節高く對生一穂の形土  
午膝の如く實午膝と同根も午膝に似て  
短し此苗葉を採り飯を雜置蠅を毒し葉  
味渋し



紫菀 在いりさう 和名

萬葉集丹をぬかしこころも云集解の説ゆへは在いりさうを充る穂  
をいりさうも先暫く舊説ゆ従ふ春宿根より生る葉長さ二三尺本狭く未潤く秋月莖  
高さ四五尺梢を分ち花あり形馬蘭に似たり根鬚頭の如し



本草綱目 卷之十七 紫菀 五



本草綱目 卷之十一 菊類 大坂志ん

一種

大坂志ん



近年江戸也何の葉長三四寸  
莖高さ二尺許めて花ハ紫紫  
と同一

一種

桔梗の

原の

志ん



又御幕の内とも名づく不破の関也産まると朝倉義  
方より形状大坂志んを元ふ似て又小雞児腸切も似て深緑  
色光澤有り秋月莖高さ二尺許花ハ紫紫も似小

一種

千本の

きん

又ありのきんより前種の物類より葉  
甚狭く柳葉の如く一根本最生す花ハ紫  
紫も似て小あり



本草綱目

卷之十一 桔梗の志ん

六



女苑

むめあぢん



武州處々山野多し春宿根より生じ葉ハ旋覆花並に  
小似て狭長く初地巾布後葉室を起す夏月高じ二三尺梢子枝  
を分ち花を開く白色にして碎瓣小菊の如し後白茹あり

麥門冬

イササゲ

延喜式



大葉の物をイササゲと云葉潤き七八分長さ二尺半許面深  
綠色にして背淡緑建蘭葉小似る花穂を多し六瓣淡  
紫色又白花あり後實を給ふ黒色にして大寸南燭子の如  
し又漢種の物あり大葉の物と同し一種たき形を子木知一  
名をササゲりさう湘州と云り初生の葉黄色又つららんと  
いふハ綠色也白斑あり



一種

オダシ

山中自生あり葉潤  
三四尺長さ二尺餘花  
穂長や一葉上齊  
質紫黑色根亦塊  
あり長

一種

オダシ



白花

白質  
の物





一種 里うのむけ戸

山野に生れ又多く人家に  
栽り葉潤き三寸長さ一取許  
扁く葉生れ深緑色冬潤ま  
に根は白色の塊りあり天門  
冬に似て小かり夏月葉間  
より莖を抽穂を却て六辨  
淡紫花を開く冬に萎りて  
寶碧色小あり一種葉の  
幅二分許長さ四五寸は  
て一花ぶとは實四五顆を  
結ぶものあり熟して黒色  
あり



一種 いちえん



四時不凋葉は大葉  
麥門冬に似て狭く夏  
月白花を開き後實  
を結り碧色あり根は  
塊りあり



一種

けいびらん



葉は大葉麥門冬に似て下を密に雞尾の形に似たり故に名は花小なり黄白色穂は枝を生し實小なり

萱草

日世れり 延喜

春月宿根より生じ葉ハ蜀黍にも似たり根叢生に賤民救苗を採て菜とあり  
食は夏月莖を抽して花を開く形百合に似紅黄色千葉草葉の三品有り單辨者可食千辨者食之殺人と云是ハ花を食ふことを云千辨の物を漢名密萱 芥子園 云云一種 本草綱目 一種の品少く葉は白色の間道はものはを文萱花 中山傳 といふ此類皆根小塊有りて麥門冬に似たり





一種

あんだんらんさう

苗葉甚し長大長さ二三尺冬も凋る  
故母又常盤のらんさうともいふ花六瓣  
純黄色也大さう此子香萱 明菴園と云  
草木譜





一種

セツメイク



萱草より葉短く四月廿九日  
あり軍辨純黄色あり是を  
漢名春萱明灌園以上二種華  
夷考中金萱花色純黄と云  
是なり

一種

ひめくまんさう

苗高さ二尺餘少く萱  
草より齊く花六瓣  
より紅黄色あり





一種  
あうすげ



形ひめろんさう  
の如く一花紅色の  
事類合璧云萱  
草有紅紫と云ふ  
れあり

一種

物印忙子  
莪子灰此同



リ、エムナルシツ  
シエス 和蘭



一種 三つまげ

又の西りとも云木曾  
山中水澤邊に生る葉  
ハ紅まげより稍狭く水  
澤中ニ植花ハかうまげ  
と同一是物集解の時  
珍の説に南方草木状に  
引て唐中一種水葱状ハ  
鹿葱<sup>鹿葱</sup>の類其花或紫  
或黄蓋亦此類也ト云是也



一種

きまげ

野州日光山あり葉萱草  
より狭長く管の葉より花ハ  
辨淡黄色未の刻に開くとい  
つしきも小







淡竹葉 十丁六寸

又まじりどぎ、本草どりの處々生じ春若根より生じ初生竹の如く葉を令く竹の如く高さ三尺許枝ゆい秋月穂を生じ枝あり形雀麥也其葉似て瘡たるまれし觸れ入衣を刺秋月苗枯る其形髪ありて處を塊りあり形麥門冬に似て硬し

鴨跖草

ついで

尋常の物





荒野多し春月密より  
 生れ竹の葉止似く厚く軟  
 小圓莖豆生し節の間より  
 鬚根を生れ其形烏の背  
 如たり其中より花を向  
 く三瓣小く青碧色又白  
 花もあり又青色小く  
 周の黄白色あり又紫  
 色を帯るもの



白花の物

圓葉の物

黄白  
交る物

一種 どうわりし尾

大和及び近江の粟本  
 郡山田村より種りしもの  
 苗葉大にして高さ二三  
 尺直立し花  
 も尋常の品  
 より倍せり此花  
 を早朝に摘て  
 汁を絞る紙に  
 凍らざるをいひ  
 ここの小浜家の  
 下繪小用いし燈  
 籠等の画具小  
 もなる也





葵

かんあひ



古ハ五菜の一也食用すまふ單也葵とハ冬葵を指す武州品川小自生何れ舊幹より生に葉ハ圓ろ小邊小雲頭のかき砥齒何れ葉ハ掌力大さ何れ高さ三四尺圓莖少く互生一春夏葉の間ハ五瓣の白花を開く錦葵ハ似て小かり實ハ蜀葵ハ似て甚小かり其葉菜と云へ柔滑なり

一種

なかのま



形状冬葵也似て葉の周りに皺あり花實も冬葵と同一葉を採暴幹微炮り搦て煮物へ振りけ食ハ味乾苔也似たり故にまのりとなつ



蜀葵 左ふあひ

人家少く裁り形状各葵也似て葉大く一五尖は木芙蓉に似たり莖高さ八九梅兩中花を開く芙蓉花に似たり單葉千葉紅色深紅色白色等の葉あり其葉木槿に似たり其實圓く扁く車の輪の如く周りくふ葵より大なり



右ふあひ



白花



くろあひ  
黒葵  
花秘傳



錦葵 集解

七山  
めいじ

人家に栽葉は冬萎小似て圓く苗麻の如く莖  
高さ三四尺梅雨中葉の間を花を開く五瓣淡紅色小  
し紫色の堅筋あり大さ錢の如く故に漢土より錢  
葵種名といふ兩雅小莖と云註小其花大如五錢  
粉紅色紫縹紋と云り又白花ありあり



菟葵 くらぶら

山足陰地三月頃宿  
根より生る在處は他草  
少く但此物の多し葉ハ  
牛扁に似え小似てかく眩  
牛兒苗狀の如く白点あり  
一根葉生一從て莖と  
抽て花を開く大さ白梅の  
如く此物必一莖二花あり故  
亦又少く生るるも夏月  
苗若根ハ馬頭也似て小く赤て  
連珠と云ふ

一種

八重の如く人さうあり苗葉ふさふさして  
稍小く初生紫色も帯ふ一莖二葉其花白  
色葉の根花也似る根も前種と同





一種 せんぶんさう

相州管根其外山足北山  
 中少節分の頃生人家用  
 三月三日生葉ハ烏頭くわとう  
 似テ小葉長サ寸許一花  
 五瓣白色梅花の如根圓  
 塊アリ延胡索えんごそう似テ黒褐色  
 アリ以上三種藤茶説と云ふの  
 の是也



一種 いちりんさう

又一花さうとも云春  
 月山足の陰處生  
 月初生紫色長すれハ  
 緑色アリさうの葉  
 母似テ大少一花多ク  
 背紫紅色葉の中一花  
 小間ハ五瓣白色微紅色  
 帯ハ根似股の如ク又  
 筋の如ク黄白色也  
 延胡索通志の大葉  
 响嶽神書の紫背  
 天葵ハ此類也





一種



越後信州等小産するもの葉大より牡丹の形あり  
 苗高さ寸許し葉一花あり花五瓣或は七八瓣を長  
 く白色も微紅色を帯び根の形一もんさうと同一文  
 華の物あり

一種

苗葉小ゆけ花碧色の物  
 あり字夷説と云ふの菟葵也  
 先輩予んせんを一名朝露さ  
 うと云つ是は高さ二三尺及び  
 夏月の間花を開くものなる宗  
 夷去其形至小種菟葵菖麥  
 動搖春風さるるを何れハ種あり  
 ハきんせんくをハ種ありハき  
 んせんくをハ種菖本草の野西瓜  
 苗あり





黄蜀葵

とろく



一種

山吉貝

明菴園  
草木識



漢種と稱するものあり苗  
 長大葉ハ岐深く細一花ハ前種  
 と同一た大赤白と四五寸切



春末也實を下して先に初生ハ蛇葡萄の如く圓莖互生一  
 梢葉ハ五尖ありて大麻葉の如く秋月葉間ハ五瓣の黄花を  
 開く花心紅紫色木槿花に似て稍大あり後角を結ぶ形胡麻  
 に似て五稜ありて毛茸有り熟まれば黒色内ハ仁  
 有り其形猶猴の面に似たり故也  
 根乾して紙を漉粘也用也故小何りきといふ

龍葵

こうかいづき

又いぬふらぐきともいふ園  
 圃春月實より先に葉ハ酸  
 醬の如く似て多く枝を分つ  
 夏月五瓣の小白花を開き實  
 を結ぶ熟して黒色族生は冬  
 月苗根共枯る



龍珠

ただうかうじ

又やまぼうしとも云  
 山野小何り春月宿根  
 より生は葉ハ尚陸  
 に似て小く多く枝を分る  
 葉枝の間ハ五瓣の淡黄  
 花を開く形酸醬の如く  
 の花小く後實を  
 を結ぶ圓實の番椒の如く  
 紅色なるものと白英の如く  
 似たり





一種

いねやぶらぎ

苗葉龍珠の  
如く但其實稍  
蔓陀羅華小  
似て小く又花  
亦似て綠色小



酸醬 ねらぶらぎ

勢州布引山の傍ならずき  
谷中自生多し又人家多し我  
春月宿根より生れ葉六葉  
小似て紫色ありは一葉中三葉  
並ひつぎ其間より花を開く  
一辨中五尖あり花を  
よ似て黄白色後實を  
結ぶ殼の形燈籠の如く  
又葉華子の如く熟まれば  
ハ紅色あり中の實母指  
頭の大小して正圓あり  
奥州より又二殼の中實  
二箇並ひ着りのあり一  
種丹波ならずつぎハ形状  
尋常の如くつぎハ似て  
葉莖長大較長く七尖あり實も又大





一種 瓜ういんわうづき

莖葉酸醬つぎと同一  
但其實圓き故かゝる形  
瓔珞の如く後紅色あり



苦蕒 釋名

てうせんわうづき

春夏の間園圃  
の中少實より生じ  
苗矮短し枝多し  
葉實とも小酸醬  
み似て小く熟しちり  
緑色あり酸醬より  
實を結ふこと多し  
へんありかうづき  
と云





蜀羊泉

あるものい  
どり志のい



又のめりくも云越後陸奥下総武州本所等の原野也  
春月舊根より苗を生れ葉は白英は似て葉は枸杞に似たり花  
は立辨紫色實も枸杞に似たり味は酸く耳

漆姑草

集解 蔵器 たかむつめ

人家庭際尤多し小草あり松撮は皆の  
苗に似て軟也又鹹蓬に似たり又小あり白  
花を開き小羽兒を結ぶ種安房の産は苗大し  
て葉長し七分あり一種信州御嶽の産は  
又長大し一花殊母大きし

安房産

御嶽産





鹿蹄草

いちぢく

さうり

處々山中陰地母生は四時凋まはるは杜衡也似て  
 深緑色光澤あり亀甲紋あり故也つこさうり  
 とり初夏月一莖を抽し六瓣の白花連生し後  
 天茄子形かうの如き實を結ぶ其形鈴を懸る如し  
 一故母又さうらんともしふ

一種 小葉いちぢくさうり

深山中母生は四時とり母あり一莖高さ一寸許頂より  
 三葉生は桂木叶似て紫を帯ぶ中心より花を  
 開き實を結ぶ形状鹿蹄草と同一



一種

尾州より紫花の鹿蹄草と  
 稱するもの来る葉は鹿蹄草よ  
 り狭く莖細く蔓の如く花淡紫  
 色あり野州日光山母あり

一種

とらこか  
 さうり

越後母産は花  
 五瓣淡紅色大  
 一て桃花の如し





一種

いもかぐく

處々深山岩石の間  
生は四時凋まい根を  
蔓の如く鬚あり葉圓と  
して硬く光澤あり粗き鋸  
齒あり短き穂を抽て小白花を  
開き實を結ぶ形状鹿蹄草と同一

信州の産

武州御嶽産



一種

アキトウチツコ

諸國山中多あり  
葉ハ岩如く厚  
く大なり微紅  
紫を帯ぶ花ハ穂を  
あし形石竹に似て小  
く淡紅色あり





本草匯編 卷之十七 十八

一種

何之由  
か  
つ

葉岩かこより長大ゆて  
面紅色背は淡く硬くして光澤  
有り根蔓を少くす





